



札幌みんなのサイクルポロクル

特定非営利活動法人 ポロクル：山本純江

1 ポロクルとは？

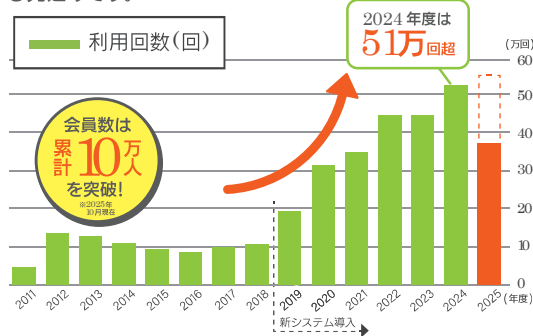
札幌のシェアサイクル「ポロクル」は、2011年より北海道札幌市の都心部で事業を展開しています。



2025年度実施概要
営業期間 ▶ 4月6日～11月15日の224日間
ポート ▶ 65カ所 自転車 ▶ 620台

事業開始以降の利用状況の推移

2024年には、ついに1シーズンあたり51万回を超える利用がありました。今年も昨年より1割程度利用回数が増加する見込みです。



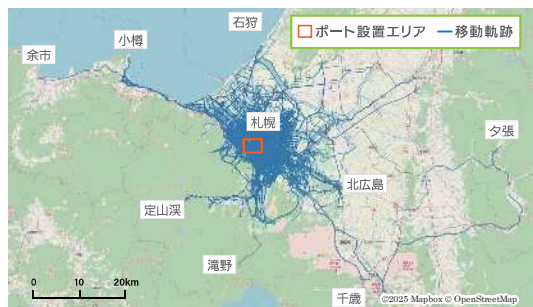
2024年度の実績

2024年度は600台の自転車で営業を行い、1日の最大利用回数は3,510回、自転車1台の最大回転数は6.4回/台・日となりました。

1日平均利用回数	1日最大利用回数	1日平均回転数	1日最大回転数
2,304回	3,510回	4.2回	6.4回

2024年度の利用者の移動軌跡

ポート設置エリアを大きく超えるような移動も見られ、日常利用だけではなく、観光にも利用されています。



2 ポロクルと札幌市のかかわり

ポロクル

札幌市

2008

新たな交通システム「シェアサイクル」への挑戦



総合建設コンサルタントである(株)ドコモの有志者チームがシェアサイクルの検討を開始。有識者等による任意団体「北海道モビリティデザイン研究会」を設立し、イベントや実験などを実施しました。

2011

ソーシャルビジネス実証実験としての事業化



(株)ドコモモビリティデザインを設立し、シェアサイクル事業と社会貢献活動をスタートしました。

主な活動



アスリートによる啓発動画作成・公開

駐輪自転車の整序活動 路上駐輪場の導線管理

2014

社会モデルとしての「NPO法人ポロクル」



株式会社による事業継続が困難であると判断。社会貢献活動を主体としたシェアサイクル事業を業態とするNPO法人が事業継続を決定、活動をスタートさせました。

主な活動



車道向きポートの設置

外国人観光客へ向けた貸出開始

2019

新システム移行による事業の成長



NTTドコモ社のシステムへ移行。全車両が電動アシスト自転車となり、利用者が増加しました。

主な活動



新しい生活様式に向けた自転車活用の提案

観光施設との連携

2025

地域とともに育んだ価値が評価されました



国際交通安全学会(LATSS)2024年度学会賞(業績部門)受賞
ポロクルがシェアサイクル関連事業を通じて、まちづくり・ひとづくりに貢献し、地域の交通システムとして成長してきたプロセスを評価いただきました。

2011 札幌市自転車利用総合計画

目標

- 安全な自転車利用環境の実現による魅力的なまちづくり
- 取り組むべき施策項目
 - 自転車走行空間の明確化
 - 総合的な駐輪対策の推進
 - ルールやマナーの効果的な周知と啓発

「放置自転車の抑制対策」としてコミュニティサイクルシステムの施策実施に向けた検討を開始

2013 札幌市・ポロクルとの防災協定の締結

- 避難場所等への自転車の運搬と設置
- 設置した自転車の点検・整備の管理
- 自転車の無償貸出管理

2016 第2次都心まちづくり計画

目標

- 国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立
- 魅力的な都市のライフスタイル・ワークスタイルの実現

2022 防災協定の再締結

- 災害時における市職員のシェアサイクルの無償貸与
- 専用ICカードの貸与
- 予備バッテリー及びACアダプタの貸与

2023 札幌市自転車活用推進計画

目標

- 安全で快適な自転車利用環境の実現による魅力的なまちづくり
- 基本方針
 - 自転車走行空間の整備
 - 総合的な駐輪対策の推進
 - 自転車の安全利用の促進
 - 幅広い自転車活用機会の創出

「シェアサイクルの展開」を施策の一つとして位置づけ



矢羽根型路面表示 再開発に合わせて整備した駐輪場

ポロクルを通じ未来につながるまちづくりへ貢献

私たちポロクルは、ユーザーの声に真摯に耳を傾けながら、シェアサイクル事業を通じて、札幌都心部の移動利便性の向上、まちの活性化、景観の魅力創出、環境保全、そして自転車の安全利用促進に取り組んでいます。これらの取り組みを通じ、NPO法人として未来につながるまちづくりに貢献すべく、活動を続けてまいります。